

■米国：DOEのペリー長官が年内に退任、後任はブルーエット副長官

トランプ大統領は2019年10月17日、エネルギー省（DOE）のリック・ペリー長官が年内に退任すると発表した。また、DOEが同日に公表したリック・ペリー長官からトランプ大統領に宛てた辞任を伝える書簡では、ペリー長官がトランプ政権で奉仕することは「極めて名誉」であること、米国がエネルギー輸出国に転換したこと、電力部門からの温室効果ガス排出量が減少し1987年以来最低のレベルになったことなど、政権のエネルギー分野での実績を振り返り、後任がこの任務を継続するための準備が整っているとし、「年末に辞任する」と述べた。退任の公表を受け、トランプ大統領は翌18日に自身のツイッターで、DOE長官の後任に現DOE副長官のダン・ブルーエット氏を指名することを明らかにした。ブルーエット氏は、フォード自動車の副社長やルイジアナ州のエネルギー規制当局での委員（2013～2016年）などの経験があり、上院での超党派の承認（賛成79、反対17）を経て2017年8月からDOE副長官に就いている。なおペリー長官の正式な退任日は発表されていないが、10月21日時点の地元報道によると、長官は2019年12月1日に辞任している。